

国語科の「言語活動」を徹底追究する

「読み」の授業研究会編

平成20年に「言語活動」が提起されて以来、国語科をはじめ、さまざまな学習の中で、感想を述べ、合ったり討論したりする学習が進んでいる。学習目標を設けながら読む、書く、話すなどの多様な言語活動を子ども相互の学び合いで進める授業が実現する一方、活動主義に留まる授業になってしまつて課題もある。

提言者の一人、阿部昇秋田大学教授は「言語活動を取り入れた国語科授業では、子どもたちがどのくらい価値ある課題を検討し、議論しているかの試行錯誤の質を問う必要性が生じるとする。さらに、対話や討論の深まりの中で多様な考えや価値が生まれているか、子どもが学習を経てどういった教科内容を身に付けているかなどを具体的に見取り、考察し授業の具体に反映する必要性があるなど訴える。

「アクティブ・ラーニング」の視点も示されているが、言語活動を通じた学びの総括や振り返りが不十分のままでは、単なる活動主義に傾いた授業が繰り返される恐れがある。

そんな課題意識で、アクティブ・ラーニングの表現や具体的展開を見通す

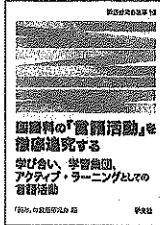
「アクティブ・ラーニング」の目標である「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」を見据えつつも、形だけの子ども主体の協働的活動に陥らない授業構想と展開を十分吟味したいと

「アクティブ・ラーニング」の目標である「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」を見据えつつも、形だけの子ども主体の協働的活動に陥らない授業構想と展開を十分吟味したいと

「アクティブ・ラーニング」の目標である「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」を見据えつつも、形だけの子ども主体の協働的活動に陥らない授業構想と展開を十分吟味したいと

「アクティブ・ラーニング」の目標である「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」を見据えつつも、形だけの子ども主体の協働的活動に陥らない授業構想と展開を十分吟味したいと

「アクティブ・ラーニング」の目標である「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」を見据えつつも、形だけの子ども主体の協働的活動に陥らない授業構想と展開を十分吟味したいと



もう一つは連筆です。金釘文字、丸文字といった書きぶりが「書道をする」と子どもが落ち着くといわれます。金釘文字は、連筆の

強調する。

“学校経営には哲学が要る”

先哲の言葉に学ぶ 学校経営・教師像

西村佐二 著 聖徳大学教授、元全連小会長

教育新聞社 発行 A5判 281頁 定価 2,100円 (税込)

学校経営において、学校管理職は課題をどう捉え対処するか、そして、いかに率先して実践するかというリーダーシップと行動力が問われます。

本書は、教育新聞に連載されていた「先哲の言葉に学ぶ学校経営・教師像」を再編・加筆したもの。学校経営にあたっての困難を乗り越えるヒントとなる先哲の言葉、ならびに明治期・大正期の教師像を紹介しています。

【目次】

- はじめに
- 第一部 先哲の言葉に学ぶ学級経営
 - 第一章 リーダーシップを発揮し、学校経営力を高める
 - 第二章 所属職員を育て、学校の組織力を高める
 - 第三章 自己研鑽に励み、管理職としての資質を高める
- 第二部 明治・大正の教師像から学ぶ
 - 第一章 小学校教育黎明期における教師論
 - 第二章 小学校教育確立期における教師論
 - 第三章 明治後期における教師論
 - 第四章 大正期における教師論

ご購入は Amazon.co.jp へ

アマゾンの本コーナーで検索下さい

先哲の言葉に学ぶ学校経営・教師像 検索

公費購入のお客様は、必要事項 (①書名/冊数②購入者名/送付先③電話番号) をご記入の上、弊社宛にFAX (03-3295-7054) でご注文下さい。

教育新聞社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-40-2 TEL03-3295-7051 URL http://www.kyobun.co.jp

公費購